学校運営協議会議事録

校名	大阪府立難波支援学校
校長名	室田 澄江

開催日時	令和 7年 6月25日(水) 13:30~14:45
開催場所	大阪府立難波支援学校 校長室
出席者(委員)	上宮委員、大島委員、鈴木委員、谷口委員
出席者(学校)	室田校長、錦織教頭、石原教頭、植松首席、吉村首席、生田首席、大原首席、引野事務長
傍聴者	なし
協議資料	令和6年度学校経営計画及び学校評価 令和7年度学校経営計画及び学校評価 大規模災害PTIについて

議題等(次第順)

- ・学校経営計画について
- ・その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)

令和7年度学校経営計画について、各委員から次の意見が出された。

(ICTの活用について)

- ・「デジリハ」を見て体験し、活動が結果的にはその子どもにとっての訓練になるのではと思う。本来の自立活動のやり方であったり、目的に近づけることができたりするという可能性をすごく感じた。
- ・システム導入やICT活用することになると、個人情報管理をおろそかにしてはいけない。情報漏洩対策を怠らないようにリスク管理を徹底すること。

(防災等について)

- ・ローリングストックはすごく重要なことであり取組みを進めていただきたい。
- ・児童生徒が在校時に発災した場合に、子どもを迎えに来られない保護者や最終的に迎えが来ない子どもが学校にいる状況になることが考えられるし、被害が大きい場合に近隣の学校生徒や地域住民が避難に来る。そのようなときに子どもたちをどのように、どこに避難させるのか、ある程度のルールを作っておくと対応しやすいのではないかと。

本校は避難場所に指定されていることから、防災計画を進めるにあたり、学校に避難される地域住民に理解していただくこともあるので学校の限界を感じる。行政との連携を強めるべきであり、地域を取り込んだ防災訓練を行うことが必要。

- ・被害状況によっては建物の階上へ避難する場合があるかと思うが、小さい子どもや肢体不自由の児童生徒が避難することを想定した訓練を実施すべき。
- ・自主通学の生徒について、発災時に子どもがどこにいるかを家族が確認できる方法や生徒自身がその場の人に助けを求められることができるような手段を考えるべき。
- ・大規模災害が起きたときは、一人でも多く人命を落とさないことが大事なことから、保護者に対して日頃から防災意識の熱心に呼びかけ、家庭で出来ることは家庭で行っていただくということがすごく大きな要素であるから、その取組みを続けてほしい。

(キャリア教育の充実について)

- ・今年度から厚労省の方で「進路選択支援事業」が10月から始まる。就労継続支援B型とかA型に行かれる方は、基本的には就労選択支援を原則1ヶ月間受けなくてはならない。教育現場にこの情報が浸透していないのではと心配している。進路指導にあたり、本事業制度を正しく理解していただきたい。

次回の会議日程

日時	令和7年11月下旬
会場	難波支援学校(具体的な会議室は未定)